

卒業論文要旨

福島県の畑作圃場における土壌中の放射性セシウムの深度分布

山崎 琉太

Depth distribution of radioactive cesium in soils of farmlands in Fukushima
Prefecture

Ryuta Yamazaki

福島原発事故から 15 年経過し、避難指示を受けた地域で営農再開の取り組みが進む中、除染作業の影響で土壌の ^{137}Cs の深度分布にムラができることが分かってきた¹⁾。今回、既に調査済みの水稲圃場¹⁾と畑作圃場での土壌の深度分布の違いや、1つの畑作圃場内での深度分布のばらつきを調査した。

2025 年 3 月と 9 月に福島県大熊町の畑作圃場で、深度 30 cm まで土壌を採取した。採取土壌を 2.5 cm ずつに分けて Ge 半導体検出器を用いて測定し、 ^{137}Cs の深度分布を求めた。

調査の結果、水稲圃場では高い濃度が多くの場合 5 cm より深い位置に達しているのに対し、畑作圃場では 5 cm より浅い位置で見られる点が異なっていた。一方、高濃度層より深い位置で、放射能濃度が指数関数的に減少している点が共通していた。

文献

- 1) 片山晃承, 令和 6 年度修士論文